

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	清泉女子大学
設置者名	学校法人清泉女子大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本語日本文学科	夜・通信	331	331	2	333	13	
	英語英文学科	夜・通信			26	357	13	
	スペイン語スペイン文学科	夜・通信			0	331	13	
	文化史学科	夜・通信			12	343	13	
	地球市民学科	夜・通信			54	382	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学公式 Web サイトにて公表 https://www.seisen-u.ac.jp/department/syllabus/syllabus.php

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	清泉女子大学
設置者名	学校法人清泉女子大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学公式 Web サイトにて公表 https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/finance.php

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(宗) カトリック聖心侍女修道会日本管区長、 (学) 清泉女学院理事長	2018. 4. 1 -2021. 3. 31	国際交流、質保証、 大学院担当
非常勤	(宗) カトリック聖心侍女修道会会員、 (学) 清泉女学院評議員	2018. 4. 1 -2021. 3. 31	学生生活（除く就職）、地域連携（生涯学習）、学生寮担当
非常勤	上智大学文学部哲学科教授	2020. 4. 1 -2023. 3. 31	教学担当
非常勤	早稲田大学・大学院非常勤講師	2018. 4. 1 -2021. 3. 31	国際交流、質保証、 大学院担当
非常勤	(株) ボストンコンサルティンググループシニアアドバイザー	2019. 4. 1 -2022. 3. 31	入試・広報、学生生活（就職）担当
非常勤	(株) ヴィジオ 代表取締役	2018. 4. 1 -2021. 3. 31	財務・人事・総務担当
非常勤	(株) クロスポイント・アドバイザーズ顧問	2020. 4. 1 -2023. 3. 31	財務・人事・総務担当
非常勤	清泉女子大学名誉教授、 (公財) 東京財団政策研究所理事長	2020. 4. 1 -2023. 3. 31	教学担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	清泉女子大学
設置者名	学校法人清泉女子大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年12月に、学務部長から授業担当教員に対してシラバス執筆の依頼を行っている。本学のシラバスの項目は、①授業テーマ、②授業概要、③学生が授業内でPCを使用する科目、④実務経験のある教員による科目、⑤授業をすべて英語で行う科目、⑥課題解決型学習を取り入れている科目、⑦討議を取り入れている科目、⑧グループワークを取り入れている科目、⑨発表を取り入れている科目、⑩フィールドワーク、実習、実技を取り入れている科目、⑪到達目標、⑫授業計画、⑬授業以外の学修、⑭評価方法、⑮課題に対するフィードバックの方法、⑯関連するディプロマポリシーなど全部で21項目あり、執筆者に対して、シラバス執筆のためのマニュアルを配付し、各項目を執筆する際の留意事項を周知している。</p> <p>毎年2月には、シラバス編集委員が、シラバスの記載内容が各学科等のカリキュラムのねらいや体系性に基づいた当該科目の位置付けと整合性がとれたものとなっているか、具体的な内容が記載されているか等について点検を行い、記載内容の変更が必要なものについては、執筆者担当者へ修正を依頼している。</p> <p>このような手続きを経て、例年3月に、本学公式Webサイトにてシラバスを公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://www.seisen-u.ac.jp/department/syllabus/syllabus.php</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価や単位の認定については、『学生要覧』において、評価 (S・A・B・C (合格)、D・F (不合格)、W (履修取下げ)、NP (検定試験等の合格をもって単位を取得できる科目で不合格だった場合)) や、素点と評価基準の関係、GPA等について明記し、学生に周知している。</p> <p>必修科目等、クラス分けを行っている科目では、評価基準についても担当教員の間で調整し共有している他、学生が成績評価について不明・疑問な点がある場合は担当教員に書面で問合せ、教員が評価基準や評価の正当性を回答する制度もあり、成績評価の客観性・厳格性に寄与している。</p> <p>スペイン語スペイン文学科以外の学科は卒業論文 (または卒業レポート) を必修としており、ディプロマ・ポリシーに照らした達成度の評価も行っている。なお、スペイン語スペイン文学科については、低年次から多くの必修科目を設けるとともに、専任教員が担当する「ゼミナール I~VII」を選択必修科目としており、これらの授業の積み重ねの中で、ディプロマ・ポリシーの達成度に関しても十分な評価を行っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、Sを4点、Aを3点、Bを2点、Cを1点、D及びFは0点として、全ての科目を対象に、以下の計算式でGPAを算出している。このとき、NP (検定試験等の合格をもって単位を取得できる科目で不合格だった場合)、W (学生が履修を取り下げた科目)、単位認定科目は含まれない。</p> $GPA = \frac{(S \text{ の単位数} \times 4) + (A \text{ の単位数} \times 3) + (B \text{ の単位数} \times 2) + (C \text{ の単位数} \times 1)}{(S \text{ の単位数}) + (A \text{ の単位数}) + (B \text{ の単位数}) + (C \text{ の単位数}) + (D \text{ の単位数}) + (F \text{ の単位数})}$ <p>なお、この計算式については本学公式 Web サイトにて公表するとともに、『学生要覧』にも記載のうえ、毎年行う学科ガイダンスを通じて全学生に対して十分な周知を行っている。学生は、成績照会サイトで自身のGPAを確認することができる。</p> <p>成績分布の把握については、予め設定した上記GPAの算出方法に基づき、①全科目及び科目群毎の履修者全員のGPAの分布、②学科毎のGPAの分布、③履修者数の違いによるGPAの分布、④科目毎の履修者全員のGPAについて算出し、全ての授業科目の教員へ通知するとともに、⑤学科学年別の平均GPA・最高GPA・最低GPAを算出し、保証人宛へ成績通知書を送付する際に、同封している。また、⑥学科学年別のGPAの分布もあわせて作成し、下位1/4のGPAと人数についても学内で把握している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.seisen-u.ac.jp/departament/syllabus/grade.php</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、文学部と学科ごとの卒業の認定の方針（以下ディプロマ・ポリシー）を、本学公式 Web サイトで公表している。文学部のディプロマ・ポリシーは、以下の 6 項目からなり、さらにこれを展開し深めるよう、学科ごとのディプロマ・ポリシーを定め、卒業時に学生が修得しているべき知識、技能、態度等の学習成果が総体としてわかりやすいように記述している。

- (1) 豊かな教養と専門領域の学芸を修得している。
- (2) 建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムを理解し、他者を思いやる人間性を持ち、奉仕的精神を持って行動できる。
- (3) 複雑な事象を前にしても、問題の根源にさかのぼって論理的に思考を重ね、解決を目指すことができる。
- (4) 言語等によるコミュニケーションの能力を備え、多様な立場や考え方が交錯する中でも対話を続ける姿勢を保つことができる。
- (5) 文化の多様性を理解し、個々の文化の個性を尊重し、国際社会の中で活躍するための基本的な資質を備えている。
- (6) 常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる。

文学部を卒業するには 4 年間在学し、124 単位以上を修得する必要があり、卒業に必要な最低修得単位は、全学共通科目を 38 単位以上、各学科の専門科目を 70 単位以上、自由に修得すべき単位として 16 単位以上である。これらについては、卒業要件として『学生要覧』に記載している。

① 全学共通科目 38 単位

- | | | | |
|-------------------|-------|-----------------|------|
| (1) 共通基礎（建学の精神） | 6 単位 | (2) 共通基礎（心身の健康） | 5 単位 |
| (3) 共通基礎（英語等の外国語） | 8 単位 | (4) 共通基礎（情報科学） | 3 単位 |
| (5) 共通教養科目 | 16 単位 | | |

② 専門科目 70 単位

③ 自由に修得すべき科目（上記①、②、他学科専門科目、資格関係科目）16 単位

最終的に卒業要件を満たしているか否かの審査（卒業判定）は教授会で行われる。この審査では、卒業判定に必要な資料が全教員に提示される。卒業要件を満たしていない学生には、一定の条件の下で再試験が認められるが、その結果をもってなお要件を満たしていない場合は留年となる。このように、学位認定（卒業判定）の審査は、「清泉女子大学学則」に定める卒業要件（第 14 条）と課程修了の認定（第 27 条）に基づいて、明確な手続きによって客観的かつ厳格に行われている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[https://www.seisen-
u.ac.jp/overview/information/education/studen
t.php](https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/student.php)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	清泉女子大学
設置者名	学校法人清泉女子大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.seisen-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00013492.pdf&n=2019taisyakutaisyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.seisen-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00013491.pdf&n=2019syuushikeisan.pdf
財産目録	https://www.seisen-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00013493.pdf&n=2019zaisanmokuroku.pdf
事業報告書	https://www.seisen-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00013408.pdf&n=2019jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.seisen-u.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00013494.pdf&n=2019kanji_kansahoukoku.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.seisen-u.ac.jp/overview/activity/juaa.php#jikotenken

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的（公表方法： https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/education.php ）
（概要） 学則第 4 条第 2 項に、文学部の目的を以下のとおり定めている。 文学部は、キリスト教世界観に立つ本学の建学の理念に基づき、広い知識を授けるとともに深く学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、高い知性と豊かな教養をそなえ、奉仕的精神に富む女性を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/student.php ）
（概要） 本学では、文学部と学科ごとの卒業の認定の方針（以下ディプロマ・ポリシー）を、本学公式 Web サイトで公表している。文学部のディプロマ・ポリシーでは、所定の卒業要件を満たし、以下の 6 項目のような知識、技能、態度、資質を備えた学生に対して学士の学位を授与することを定めている。 (1) 豊かな教養と専門領域の学芸を修得している。 (2) 建学の精神であるキリスト教ヒューマンズムを理解し、他者を思いやる人間性を持ち、奉仕的精神を持って行動できる。 (3) 複雑な事象を前にしても、問題の根源にさかのぼって論理的に思考を重ね、解決を目指すことができる。 (4) 言語等によるコミュニケーションの能力を備え、多様な立場や考え方が交錯する中でも対話を続ける姿勢を保つことができる。 (5) 文化の多様性を理解し、個々の文化の個性を尊重し、国際社会の中で活躍するための基本的な資質を備えている。 (6) 常に学ぶ態度を忘れず、知識を広め教養を深めて、自分を豊かにしていくことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/student.php ）
（概要） 本学では、文学部と学科ごとの教育課程の編成及び実施に関する方針を、本学公式 Web サイトで公表している。文学部の教育課程の編成及び実施に関する方針は、以下の 9 項目からなる。 (1) 本学での学びの基礎と人格形成の基盤を築くために、学科の枠を越えて、必修科目として共通基礎科目群を置く。ここには、建学の精神を学ぶ科目、心身の健康を学ぶ科目、英語等の外国語を学ぶ科目、情報科学の基礎を学ぶ科目がある。この科目群は、本学が推進する初年次教育の核となる。 (2) 学科の枠を越えて知的素養を培うために共通教養科目を置く。建学の精神につながるキリスト教関連科目、幅広い教養を身につける科目、多様な文化や社会のあり方を学ぶ科目、社会人としての基礎力の育成をはかるキャリア形成支援科目などからなる。 (3) 各学科の専門領域を学び、専門の知識・技能を高め広い知見を獲得するために、学科専門科目を置く。 (4) 所属学科以外の専門分野を学ぶことができるよう、他学科に専門科目を開放する。ま

<p>た、副専攻制度、資格取得のための諸課程を設置する。</p> <p>(5) 留学やフィールドワーク、学外研修、インターンシップ等、学外での体験・実践を通じて能動的、主体的に学ぶ機会を設ける。</p> <p>(6) すべての科目に関して、学生の能動的な学修を促進するように、授業方法やクラス編成法に配慮する。</p> <p>(7) すべての科目に関して、学生が段階的に計画性を持って学修できるように、履修順序、内容レベル、時間割編成に配慮する。</p> <p>(8) すべての科目に関して、学生の学修が適切に進むように、各科目の到達目標に照らして学生の知識、技能、能力等を形成的・総括的に評価する。</p> <p>(9) 学生会活動やボランティア活動等のカリキュラム外の活動を、体験・実践を通じて学ぶ機会と位置づけ、カリキュラムとの関連に配慮する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/student.php）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学では、文学部と学科ごとの入学者の受入れに関する方針を、本学公式 Web サイトで公表している。文学部の入学者の受入れに関する方針は、入学者選抜方法ごとに、それぞれの目的、資質等の評価方法などを定めている。また、文学部のポリシーを踏まえて、各学科のポリシーを定めており、具体的な入学者像を公表している。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法： https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/index.php#1gou2kou</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部	—	29人	12人	6人	0人	0人	47人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			225人				225人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：						
	https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/professors.php#02						
	https://www.seisen-u.ac.jp/department/undergraduate/japanese/professors.php						
	https://www.seisen-u.ac.jp/department/undergraduate/english/professors.php						
	https://www.seisen-u.ac.jp/department/undergraduate/espanol/professors.php						
	https://www.seisen-u.ac.jp/department/undergraduate/cultural/professors.php						
https://www.seisen-u.ac.jp/department/undergraduate/global/professors.php							
https://www.seisen-u.ac.jp/department/undergraduate/common/professors.php							
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	390人	417人	106.9%	1560人	1838人	117.8%	-人	10人
合計	390人	417人	106.9%	1560人	1838人	117.8%	-人	10人
(備考) 編入学定員は設定せず、各学科若干名を募集。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	444人 (100%)	4人 (0.9%)	395人 (89.0%)	45人 (10.1%)
合計	444人 (100%)	4人 (0.9%)	395人 (89.0%)	45人 (10.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>本学のシラバスの項目は、①授業テーマ、②授業概要、③学生が授業内で PC を使用する科目、④実務経験のある教員による科目、⑤授業をすべて英語で行う科目、⑥課題解決型学習を取り入れている科目、⑦討議を取り入れている科目、⑧グループワークを取り入れている科目、⑨発表を取り入れている科目、⑩フィールドワーク、実習、実技を取り入れている科目、⑪到達目標、⑫授業計画、⑬授業以外の学修、⑭評価方法、⑮課題に対するフィードバックの方法、⑯関連するディプロマポリシーなど全部で 21 項目あり、本学公式 Web サイトで公開されているシラバスを通じて、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画を公表している。</p> <p>(シラバス) https://www.seisen-u.ac.jp/department/syllabus/syllabus.php</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<p>本学では、各科目の成績を、S・A・B・C（合格）、D・F（不合格）で示し、学生が履修を取り下げた場合は W、検定試験等の合格をもって単位を取得できる科目で不合格だった場合は NP と表記する。各科目の評価方法については、予めシラバスで公表され、学生が成績について疑義がある場合には問合せることができる制度を導入し、成績評価の厳格化や客観性の担保に努めている。また、本学では、S を 4 点、A を 3 点、B を 2 点、C を 1 点、D 及び F は 0 点として、全ての科目を対象に、GPA を算出しており、①全科目及び科目群毎の履修者全員の GPA の分布、②学科毎の GPA の分布、③履修者数の違いによる GPA の分布、④科目毎の履修者全員の GPA、⑤学科学年別の平均 GPA・最高 GPA・最低 GPA、⑥学科学年別の GPA の分布により、成績分布を把握するとともに、成績評価の標準化に努めている。</p> <p>文学部のディプロマ・ポリシーは 6 項目あり、卒業論文の審査等を通じて、各学科のディプロマ・ポリシーに照らした達成度の評価も行っている。</p> <p>文学部を卒業するには 4 年間在学し、124 単位以上を修得する必要がある、卒業に必要な最低修得単位数の内訳は、全学共通科目を 38 単位以上、各学科の専門科目を 70 単位以上、自由に修得すべき単位 16 単位以上である。</p> <p>最終的に卒業要件を満たしているか否かの審査（卒業判定）は教授会で行われる。この審査では、卒業判定に必要な資料が全教員に提示される。卒業要件を満たしていない学生には、一定の条件の下で再試験が認められるが、その結果をもってなお要件を満たしていない場合は留年となる。このように、学位認定（卒業判定）の審査は、「清泉女子大学学</p>

則」に定める卒業要件（第14条）と課程修了の認定（第27条）に基づいて、明確な手続きによって客観的かつ厳格に行われている。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科	124 単位	有・無	単位
	英語英文学科	124 単位	有・無	単位
	スペイン語スペイン文学科	124 単位	有・無	単位
	文化史学科	124 単位	有・無	単位
	地球市民学科	124 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/index.php#lgou7kou>

<https://www.seisen-u.ac.jp/overview/campus/index.php>

<https://www.seisen-u.ac.jp/campuslife/navi/facility.php>

<https://www.seisen-u.ac.jp/access/index.php>

<https://www.seisen-u.ac.jp/campuslife/activity/index.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科※	780,000 円	250,000 円	340,000 円	施設費として 34 万円徴収
	英語英文学科	780,000 円	250,000 円	340,000 円	施設費として 34 万円徴収
	スペイン語スペイン 文学科	780,000 円	250,000 円	340,000 円	施設費として 34 万円徴収
	文化史学科	780,000 円	250,000 円	340,000 円	施設費として 34 万円徴収
	地球市民学科	780,000 円	250,000 円	340,000 円	施設費として 34 万円徴収

※ 日本語日本文学科は、実習料として、2018 年度以前入学者は 1 年次に 4,000 円、2 年次に 6,000 円を徴収する。2019 年度入学者は 1 年次に 4,000 円を徴収する。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学習活動については学務課、学生生活については学生課、留学については国際交流センター、IT スキルや情報機器に関しては情報環境センターが主に窓口となり、学生の相談等に応じている。さらに、教育・学修支援センターは、正課・正課外の学修支援を行う学生の総合的な支援窓口となっている。このほかに、ラファエラ・マリアセンターにおいて、建学の精神に根付いたボランティア活動やカトリックの宗教行事の企画運営など、正課外の学習に対して積極的な支援を行っている。また、図書館やラーニングcommonsの施設は、学習や研究活動の支援の場ともなっている。 さらに、グループアドバイザー制度を設け、学科・学年ごとに定められた担当教員が学生の相談に応じたり、教員による学生面談を行ったりすることで、きめ細やかな支援体制を築いている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア形成支援のための正課科目を初年次から 3 年次にかけて開講している。就職課では、就職ガイダンスを柱に、企業研究セミナー、職種理解講座、業界研究会、TOEIC IP テストの実施、面接対策セミナー等を行い、よりよい進路選択と就業に向けた実践力の養成をサポートしている。学生の個別相談には、国家資格であるキャリアコンサルタント有資格者である専任職員とキャリアカウンセラーが当たるなど、手厚いサポート体制を構築している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ウエルネスセンターの相談室では女性カウンセラーによる学生相談を行っている。カウンセラーは、授業期間の平日は毎日入室し、相談の他にも、学生のニーズに応じたグループワークや心理検査を行っている。また、月 1 回女性の精神科医も入室し、学生相談に応じている。健康診断結果は、看護師が学生一人ひとりに保健指導を行いながら返却するなど、学生の自己管理能力を高めるよう支援している。このほかに、障がいのある学生に対しては、ウエルネスセンターが窓口となり、学科教員・関連部署と連携しながら、ノートテイク・パソコンテイク、手話通訳、教科書の点訳、カウンセラーによる相談などの支援を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.seisen-u.ac.jp/overview/information/education/index.php>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。